弘法さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-Kouhei.org

八月になりました。酷暑が続いていますが、くれぐれもご自愛ください。

一昨年から「**尾張名古屋・歴史街道を行くー杜寺城郭・幕末史ー**」をお送りしていますが、今年は**名古屋城と名古屋城下町**をお送りしています。今月は**碁盤割りの町人地**についてです。

★九十七街区の碁盤割り

名古屋城の南に**東西十二通**、**南北十筋**で区切られた**九十九街区**の碁盤割の町が整備されました。南東角は二街区で一街区としたことから、正確には九十七街区です。

那古野城の時代から城の南には町が形成されていました。那古野城址に名古屋城を築城することになりましたが、城址南側には**今市場**、**中市場**、**下市場**があり、これらを包含する形で碁盤割が整備されます。

一六一二年、家康が町割の進み具合を検分した際、三之丸の堀と町人地の間が広すぎると注文をつけました。城下繁栄の帰趨は町人が集まるかどうかにかかっていることを認識していた家康は、城を隔離するより、城と町人地を一体化させることが念頭にあったようです。

その結果、碁盤割町人地の最北部の街区は南北の長さが二十間（約三十メートル）ほど拡がり、城との距離が近くなりました。

★碁盤割の背骨は本町通り

南北の通は西端が**御園町通**、東端が**久屋町通**、東西の筋は北端が**京町筋**、南端が**大江町筋**です。京町筋の北側に**片端筋**もありましたが、京町筋と片端筋の間は武家地であり、藩政機関や上級藩士の屋敷がありました。京町筋から南が町人地です。

各区画の中央には**会所**と呼ばれる空地があり、寄合所や社寺が建てられました。道に面しては商家が店を並べました。狭い間口ですが奥行きは長く、**坪の内**と呼ばれる庭もありました。京都の町家と似ています。

家と家の間にあって「**閑所**」と呼ばれる袋小路の小道もありました。「会所」が訛って「閑所」になったとか、家と家との間を通るために「間所」が「閑所」に変化したとか、諸説あります。狭い「閑所」の両側には長屋が立ち並び、多くの町人が住みました。

清洲から町ごと、商家ごと、人ごと越してきましたので、同じ職業、同じ商売の店が軒を並べた街区が多くなりました。

碁盤割の中心、言わば背骨は城の真南を南北に貫く**本町通**。一番北端には町奉行所と評定所があり、そこから南が町人地です。

藩主参勤交代、朝鮮通信使、琉球使節等が往来する場合は本町通を使います。沿道は藩士や見物の町人で溢れたそうです。

★名古屋城下町を彩った名物商人

本町通の北端は本町です。一六一一年、本町通と京町筋の北西角で織田信長の家臣だった**伊藤源左衛門祐道**が呉服小間物商を始めます。一六五九年、祐道の子**祐基**の「現金売り正札付き掛け値なし」の商法が大当たりし、後の**伊藤呉服店**に発展します。

伊藤呉服店と京町筋を隔てた向かい側は、藩主召服を調進する尾張家呉服商**茶屋長意**の屋敷。茶屋家は武士であり、商人でもある両属的性格を持つ特別な存在でした。

名古屋城下に進出する商人の目標は本町通に店を構えることです。一六三四年、**猿屋三郎右衛門**が本町に饅頭屋を開業し、一六八六年に二代藩主光友から「**御菓子所両口屋是清**」の看板を拝受しました。

本町を南に進むと**小田原町**。魚の棚筋（永安寺町筋）の桑名町通から本町通までの地域です。**河内屋林文左衛門**が**料亭河文**を開業すると**御納屋**、**近直**、**大又**等の同業者が次々と開業し、**魚の棚四軒**と呼ばれました。

さらに碁盤割を三街区南下すると、東西の道の中心である**伝馬町筋**と交差します。本町通と伝馬町筋の交差点は通称「**札の辻**」。高札場や飛脚問屋もある城下町の中心部です。「札の辻」の北西角の街区には**桜天満宮（桜天神）**がありました。

さらに南下すると、繊維問屋の集まる**下長者町**、鉄砲や金具職人の**鉄砲町**、そして**八百屋町**を過ぎると**南寺町**に向かいます。

本町通北端の東側、両替町の東は**京町**です。呉服、細物、太物類の商人が集まったので京町と呼ばれました。薬問屋の**井筒屋中北伊助**が京町に店を構えました。

鍛冶屋町の西は**大津町**。織田家の繁栄ぶりを聞いて清洲にやってきた山城国**大津四郎左衛門**が住んでいた町が、清洲越しでこの地に移転し**大津町**となりました。

★清洲越しと駿府越し

甲府藩主義直は甲府にお国入りすることなく、家康や生母お亀の方ともに駿府城に在城。一六〇七年に清洲藩主（尾張藩主）に転封された後も駿府城にいましたが、家康没後の一六一六年に名古屋入り。その際、駿府在住家臣や社寺、商家の一部が義直に従って名古屋に移住。つまり**駿府越し**です。

名古屋の町は清洲越しと駿府越しの町人を中心に始まりました。

京町筋の**伏見町通**から**桑名町通**までの**和泉町**には尾張藩御用達を務めた**桔梗屋**が出店。桔梗屋は藩祖義直入城時に駿府から同行して駿府越しした商人です。

京町筋西端は堀川であり、五条橋から堀川の東岸を南に下ると**元材木町**、**下材木町**。豪商**材木屋鈴木惣兵衛**が店を構えました。

★東照宮・那古野神社・若宮八幡宮

城下町には多くの寺社がありました。来月は**東照宮**・**那古野神社**・**若宮八幡宮**などについてお伝えします。乞ご期待。

耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちは。酷暑の夏もようやく8月後半。もう少しの辛抱です。熱中症等に気をつけて、くれぐれもご自愛ください。

かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介しています。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということです。

天気予報で「危険な暑さです」という表現をよく聞くようになりました。「無事に夏を乗り切りたい」という表現が合う危険な酷暑です。「無事」という言葉も実は仏教用語です。

一般的な意味での「無事」とは、何事もない、普段と変わりのないことをいいます。しかし、仏教での「無事」とは、何か起こっても、何事も有っても、事もなく、何事もなかったかのように普段と変わりなく過ごすことをいいます。

良いも悪いもいろいろ起きます。でも、動じてはいけないのです。何かは起こるけど、何事もなく、普段と変わりのないように過ごせる境地、これが仏教の「無事」です。風が吹いても気にもしない、嵐が来ても気にしない。それが「無事」です。

明治時代の正岡子規は、晩年大病を患いました。死と向き合う病床の中で禅を学び、仏教の本質を体得したそうです。その正岡子規が「病床六尺」という著書の中で「禅の悟りとは、どんな場合でも平気で死ねることだと思っていたが、それは間違いだった。どんな場合でも平気で生きていけることだとわかった」と記しています。

死を身近にとらえ、いつ死んでもいいように生きていくのではなく、どんな時でも、どんな状態でも平気で生きていく。これが「無事」の本当の含意です。

中国唐代の臨済宗の開祖臨済義玄禅師が著した「臨済録」に「無事是貴人」という言葉が登場します。茶道界では年の瀬に催される茶席にこの言葉を記した掛け軸が掛けられることが多いそうです。一年間災難に遭遇することなく安泰に過ごせた喜びとともに、年の瀬、師走の喧騒の中でも日々乱れることなく、無事に新年を迎えられることを祈って、この言葉を重用していると聞きました。

仏教用語としての「無事是貴人」の本来の意味は若干異なります。正岡子規の気づきのとおり、「無事」とは覚りを開いた動じない心を言います。貴人とは「貴族」の貴ではなく、動じない心を身に着けた「貴ぶべき人」と言う意味です。

臨済禅師曰く「求心（ぐしん）歇（や）む処（ところ）即（すなわち）無事」。求める心があるうちは無事ではありません。「放てば手に満てり」という教えもありますが、「求心歇む処」が無事の境地です。そのような人が貴人です。

逆に「有事是人生」という言葉もあります。何事かが有るのが人生、すなわち人生とは良いことも悪いことも、いろいろ起きます。そういうものだと覚悟して（覚って）、日々生きていくことを諭しています。良いことが起きても、悪いことが起きても、一喜一憂せずに平気で生きていくことが「平穏無事」です。

「無事是貴人」の境地に至るには「有事是人生」と覚悟を決めて、常に「平穏無事」な気持ちで過ごすことができれば心穏やかに暮らせます。覚悟とは「覚る」「悟る」ということであり、覚悟を決めれば恐れることは何もありませんね。ではまた来月。

中日文化センター
Bridge to the Future 栄

秋の講座（定員８０名）

尾張国史を旅する
― 近世の尾張名古屋史 ―

講師：早稲田大学総合研究機構客員上席研究員　**大塚耕平**

『尾張名古屋「歴史街道を行く」』の著者が、江戸時代を中心とした近世尾張名古屋の歴史についてお話します。名古屋城築城と城下町造営の史実や尾張藩幕末史について興味深い話が満載です。

第１回	10月13日（日）	名古屋開府と金鯱城と碁盤割り
第２回	11月10日（日）	歴代尾張藩主と将軍家との確執
第３回	12月 8日（日）	高須四兄弟と青松葉事件

各回とも、日曜日の 13:30 ～ 15:00

教室　中日カンファレンス　Room2（中日ビル６階）
■受講料　2,970 円（消費税含む）

【講師プロフィール】 1959 年名古屋市生まれ。旭丘高校、早稲田大学卒業、同大学院博士課程修了（学術博士）。日本銀行を経て参議院議員。現在、早稲田大学総合研究機構客員上席研究員、藤田医科大学客員教授。
著書に「仏教通史」「四国遍路と般若心経」（大法輪閣）、「愛知四国霊場の旅」（中日新聞社）、「穂の国探究」（東愛知新聞社）、「『賢い愚か者』の未来」（早大出版部）など。

お問い合わせは…中日文化センター栄　TEL.0120-53-8164
大塚耕平事務所　かわら版担当：いわさき　TEL 052 757 1955

（イラスト）
柔和で穏やかな顔をした老夫婦の両側に「無事是貴人」と「有事是人生」の文字。照り付ける太陽を背に、老夫婦の後ろで耕平が「暑いですね～」。横で高僧が「夏は暑いものじゃ、ホッホッホ。しかし、ちと暑すぎるのぅ・・」と苦笑い。

19 日午前締切で依頼。